

1

解答解説のページへ

$a$  を  $-3 < a < 13$  をみたす実数とし、次の曲線  $C$  と直線  $l$  が接しているとする。

$$C: y = |x^2 + (3-a)x - 3a|, \quad l: y = -x + 13$$

以下の問いに答えよ。

- (1)  $a$  の値を求めよ。
- (2) 曲線  $C$  と直線  $l$  で囲まれた 2 つの図形のうち、点  $(a, 0)$  が境界線上にある図形の面積を求めよ。

**2**

解答解説のページへ

座標空間内の 4 点  $O(0, 0, 0)$ ,  $A(1, 1, 0)$ ,  $B(2, 1, 2)$ ,  $P(4, 0, -1)$  を考える。  
3 点  $O, A, B$  を通る平面を  $\alpha$  とし,  $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$  とおく。以下の問いに答えよ。

- (1) ベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  の両方に垂直であり,  $x$  成分が正であるような, 大きさが 1 のベクトル  $\vec{n}$  を求めよ。
- (2) 点  $P$  から平面  $\alpha$  に垂線を下ろし, その交点を  $Q$  とおく。線分  $PQ$  の長さを求めよ。
- (3) 平面  $\alpha$  に関して点  $P$  と対称な点  $P'$  の座標を求めよ。

3

解答解説のページへ

$k$  を実数とし、整式  $f(x)$  を、 $f(x) = x^4 + 6x^3 - kx^2 + 2kx - 64$  で定める。方程式  $f(x) = 0$  が虚数解をもつとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $f(x)$  は  $x - 2$  で割り切れることを示せ。
- (2) 方程式  $f(x) = 0$  は負の実数解をもつことを示せ。
- (3) 方程式  $f(x) = 0$  のすべての実数解が整数であり、すべての虚数解の実部と虚部がともに整数であるとする。このような  $k$  をすべて求めよ。

4

解答解説のページへ

定積分について述べた次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

$f(x)$ を整式とする。 $F'(x)=f(x)$ となる関数 $F(x)$ を1つ選び、 $f(x)$ の $a$ から $b$ までの定積分を

$$\int_a^b f(x)dx = F(b) - F(a) \cdots \cdots \textcircled{1}$$

で定義する。定積分の値は $F(x)$ の選び方によらず定まる。定積分は次の性質(A), (B), (C)をもつ。

$$(A) \int_a^b \{kf(x) + lg(x)\}dx = k \int_a^b f(x)dx + l \int_a^b g(x)dx$$

$$(B) a \leq c \leq b \text{ のとき, } \int_a^c f(x)dx + \int_c^b f(x)dx = \int_a^b f(x)dx$$

$$(C) \text{ 区間 } a \leq x \leq b \text{ において } g(x) \geq h(x) \text{ ならば, } \int_a^b g(x)dx \geq \int_a^b h(x)dx$$

ただし、 $f(x)$ 、 $g(x)$ 、 $h(x)$ は整式、 $k$ 、 $l$ は定数である。

以下、 $f(x)$ が区間 $0 \leq x \leq 1$ 上で増加関数になる場合を考える。 $n$ を自然数とする。定積分の性質  を用い、定数関数に対する定積分の計算を行うと、

$$\frac{1}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x)dx \leq \frac{1}{n} f\left(\frac{i}{n}\right) \quad (i=1, 2, \dots, n) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

が成り立つことがわかる。 $S_n = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k-1}{n}\right)$ とおくと、不等式②と定積分の性質  より次の不等式が成り立つ。

$$0 \leq \int_0^1 f(x)dx - S_n \leq \frac{f(1) - f(0)}{n} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

よって、 $n$ を限りなく大きくすると、 $S_n$ は $\int_0^1 f(x)dx$ に限りなく近づく。

- (1) 関数 $F(x)$ 、 $G(x)$ が微分可能であるとき、 $\{F(x)+G(x)\}' = F'(x)+G'(x)$ が成り立つことと定積分の定義①を用いて、性質(A)で $k=l=1$ とした場合の等式 $\int_a^b \{f(x)+g(x)\}dx = \int_a^b f(x)dx + \int_a^b g(x)dx$ を示せ。
- (2) 定積分の定義①と、関数の増減と導関数の関係を用いて、次を示せ。  
 $a < b$ のとき、区間 $a \leq x \leq b$ において $g(x) > 0$ ならば、 $\int_a^b g(x)dx > 0$
- (3) (A), (B), (C)のうち、空欄  に入る記号として最もふさわしいものを1つ選び答えよ。また文章中の下線部の内容を詳しく説明することで、不等式②を示せ。
- (4) (A), (B), (C)のうち、空欄  に入る記号として最もふさわしいものを1つ選び答えよ。また、不等式③を示せ。

1

問題のページへ

(1)  $-3 < a < 13$  のとき,  $C: y = |x^2 + (3-a)x - 3a| = |(x+3)(x-a)| \cdots \cdots \textcircled{1}$  に対し,

$$y = x^2 + (3-a)x - 3a \quad (x \leq -3, a \leq x)$$

$$y = -x^2 - (3-a)x + 3a \quad (-3 \leq x \leq a)$$

ここで, 曲線  $C$  と直線  $l: y = -x + 13 \cdots \cdots \textcircled{2}$  が接することより, 接点は  $-3 \leq x \leq a$  にあり, このとき  $\textcircled{1}$   $\textcircled{2}$  を連立すると,  $-x^2 - (3-a)x + 3a = -x + 13$  から,

$$x^2 + (2-a)x + 13 - 3a = 0 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{3}$  が重解をもつので,  $D = (2-a)^2 - 4(13-3a) = 0$

$$a^2 + 8a - 48 = 0, \quad (a+12)(a-4) = 0$$

$-3 < a < 13$  から,  $a = 4$  となる。

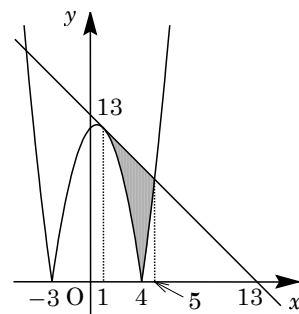
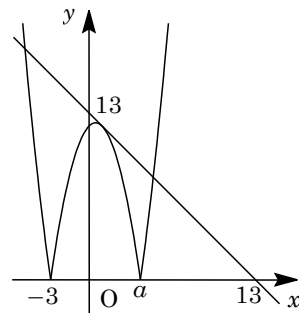
(2)  $a = 4$  のとき,  $C: y = |x^2 - x - 12|$  となり,  $x \geq 4$  における  $l$  との交点は,  $x^2 - x - 12 = -x + 13$  から,

$$x^2 - 25 = 0, \quad x = 5$$

また,  $C$  と  $l$  の接点は,  $\textcircled{3}$  より  $x = -\frac{2-a}{2} = 1$  となり,

点  $(4, 0)$  が境界線上にある右図の網点部の面積  $S$  は,

$$\begin{aligned} S &= \int_1^4 \{(-x+13) - (-x^2+x+12)\} dx \\ &\quad + \int_4^5 \{(-x+13) - (x^2-x-12)\} dx \\ &= \int_1^4 (x-1)^2 dx + \int_4^5 (-x^2+25) dx = \left[ \frac{1}{3}(x-1)^3 \right]_1^4 + \left[ -\frac{x^3}{3} + 25x \right]_4^5 \\ &= \frac{1}{3} \cdot 3^3 - \frac{1}{3} \cdot 61 + 25 = \frac{41}{3} \end{aligned}$$



### [解説]

絶対値付きの関数のグラフを題材とした面積計算の基本問題です。場合分けが不要となるように配慮がされています。

2

問題のページへ

- (1) 3点  $O(0, 0, 0)$ ,  $A(1, 1, 0)$ ,  $B(2, 1, 2)$  を通る平面  $\alpha$  に垂直な  $\vec{n}$  について,  $\vec{n} = (k, l, m)$  ( $k > 0$ ) とおくと,  $\vec{a} \cdot \vec{n} = 0$ ,  $\vec{b} \cdot \vec{n} = 0$  から,

$$k + l = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad 2k + l + 2m = 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\text{また, } |\vec{n}| = 1 \text{ から, } k^2 + l^2 + m^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

- ①より  $l = -k$ , ②から  $2k - k + 2m = 0$  から  $m = -\frac{k}{2}$  なので, ③に代入して,

$$k^2 + k^2 + \frac{k^2}{4} = 1, \quad k^2 = \frac{4}{9}$$

$$k > 0 \text{ から } k = \frac{2}{3} \text{ となり, } l = -\frac{2}{3}, \quad m = -\frac{1}{3} \text{ より, } \vec{n} = \frac{1}{3}(2, -2, -1) \text{ である。}$$

- (2) 点  $P(4, 0, -1)$  から平面  $\alpha$  に垂線を下ろし, その交点を  $Q$  とおくと,

$$\overrightarrow{OQ} = \alpha \vec{a} + \beta \vec{b} \quad (\alpha, \beta \text{ は定数}), \quad \overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OP} + \gamma \vec{n} \quad (\gamma \text{ は定数})$$

すると,  $\alpha \vec{a} + \beta \vec{b} = \gamma \vec{n}$  となり, 各成分を比べて,

$$\alpha + 2\beta = 4 + \frac{2}{3}\gamma \cdots \cdots \textcircled{4}, \quad \alpha + \beta = -\frac{2}{3}\gamma \cdots \cdots \textcircled{5}, \quad 2\beta = -1 - \frac{1}{3}\gamma \cdots \cdots \textcircled{6}$$

$$\textcircled{4}\textcircled{5} \text{ より } \beta = 4 + \frac{4}{3}\gamma \text{ となり, } \textcircled{6} \text{ に代入すると } 8 + \frac{8}{3}\gamma = -1 - \frac{1}{3}\gamma \text{ から } \gamma = -3$$

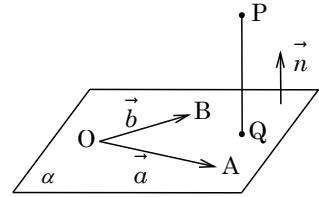
$$\text{よって, } \overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP} = \gamma \vec{n} \text{ なので, } PQ = |\overrightarrow{PQ}| = |\gamma| |\vec{n}| = |-3| \cdot 1 = 3$$

- (3)  $\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OP} - 3\vec{n} = (4, 0, -1) - (2, -2, -1) = (2, 2, 0)$

ここで, 平面  $\alpha$  に関して点  $P$  と対称な点を  $P'$  とすると,  $\frac{1}{2}(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OP}') = \overrightarrow{OQ}$  より,

$$\overrightarrow{OP}' = 2\overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP} = (4, 4, 0) - (4, 0, -1) = (0, 4, 1)$$

よって,  $P'(0, 4, 1)$  となる。



### [解説]

ベクトルの空間図形への応用について, 頻出有名問題です。(2)以降は平面の方程式を利用する方法でも構いません。

3

問題のページへ

(1)  $f(x) = x^4 + 6x^3 - kx^2 + 2kx - 64$  ( $k$  は実数) に対して,

$$f(2) = 2^4 + 6 \cdot 2^3 - k \cdot 2^2 + 2k \cdot 2 - 64 = 0$$

すると、因数定理から、 $f(x)$  は  $x-2$  で割り切れる。

(2) (1) から、 $f(x) = (x-2)\{x^3 + 8x^2 - (k-16)x + 32\}$

ここで、 $g(x) = x^3 + 8x^2 - (k-16)x + 32$  とおくと、実数係数の 4 次方程式  $f(x) = 0$  が虚数解をもつことより、 $g(x) = 0$  は実数解  $\alpha$  と虚数解  $\beta, \bar{\beta}$  をもち、

$$\alpha + \beta + \bar{\beta} = -8 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad \alpha\beta + \beta\bar{\beta} + \alpha\bar{\beta} = -k + 16 \cdots \cdots \textcircled{2}, \quad \alpha\beta\bar{\beta} = -32 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

すると、 $\textcircled{3}$  から  $\alpha|\beta|^2 = -32$  となり、 $|\beta|^2 > 0$  から  $\alpha < 0$  である。

(3)  $f(x) = 0$  の解は  $x = 2, \alpha, \beta, \bar{\beta}$  であり、 $\beta = p + qi$  とおくと、条件から  $\alpha, p, q$  は整数である。ここで、 $\textcircled{1}\textcircled{3}$  から、

$$\alpha + 2p = -8 \cdots \cdots \textcircled{4}, \quad \alpha(p^2 + q^2) = -32 \cdots \cdots \textcircled{5}$$

$\textcircled{5}$  より、 $\alpha$  は 32 の負の約数であり、 $\alpha = -1, -2, -4, -8, -16, -32$  となり、

$\textcircled{4}$  に代入すると、整数  $(\alpha, p)$  の組は、

$$(\alpha, p) = (-2, -3), (-4, -2), (-8, 0), (-16, 4), (-32, 12)$$

さらに、 $\textcircled{5}$  を満たす整数  $(\alpha, p, q)$  の組は、

$$(\alpha, p, q) = (-4, -2, \pm 2), (-8, 0, \pm 2)$$

そして、 $\textcircled{2}$  より  $2\alpha p + p^2 + q^2 = -k + 16$  となり、 $k = 16 - 2\alpha p - p^2 - q^2$  から、

$$k = 16 - 16 - 4 - 4 = -8, \quad k = 16 - 0 - 0 - 4 = 12$$

### [解説]

3 次方程式の解と整数を組み合した問題です。誘導が細かいので、それに乗れば完答できます。

4

問題のページへ

- (1)  $F'(x) = f(x)$ ,  $G'(x) = g(x)$  のとき  $\{F(x) + G(x)\}' = F'(x) + G'(x)$  が成り立ち、しかも  $\int_a^b f(x) dx = F(b) - F(a) \cdots \cdots \textcircled{1}$  から、

$$\begin{aligned} \int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx &= \int_a^b \{F'(x) + G'(x)\} dx = \int_a^b \{F(x) + G(x)\}' dx \\ &= \{F(b) + G(b)\} - \{F(a) + G(a)\} = \{F(b) - F(a)\} + \{G(b) - G(a)\} \\ &= \int_a^b f(x) dx + \int_a^b g(x) dx \end{aligned}$$

- (2) 区間  $a \leq x \leq b$  ( $a < b$ ) において、 $g(x) > 0$  すなわち  $G'(x) > 0$  ならば、 $G(x)$  は単調に増加する。すると、 $G(a) < G(b)$  から、

$$\int_a^b g(x) dx = G(b) - G(a) > 0$$

- (3) 区間  $0 \leq x \leq 1$  で増加関数である  $f(x)$  に対して、 $n$  を自然数、 $i$  を  $i = 1, 2, \dots, n$  としたとき、区間  $\frac{i-1}{n} \leq x \leq \frac{i}{n}$  において、 $f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq f(x) \leq f\left(\frac{i}{n}\right)$  となる。

ここで、定積分の性質(C)から、

$$\int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f\left(\frac{i-1}{n}\right) dx \leq \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \leq \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f\left(\frac{i}{n}\right) dx$$

$$\text{すると、} \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f\left(\frac{i-1}{n}\right) dx = \left[ f\left(\frac{i-1}{n}\right) x \right]_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} = f\left(\frac{i-1}{n}\right) \left( \frac{i}{n} - \frac{i-1}{n} \right) = \frac{1}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right)$$

$$\int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f\left(\frac{i}{n}\right) dx = \left[ f\left(\frac{i}{n}\right) x \right]_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} = f\left(\frac{i}{n}\right) \left( \frac{i}{n} - \frac{i-1}{n} \right) = \frac{1}{n} f\left(\frac{i}{n}\right)$$

$$\text{よって、} \frac{1}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \leq \frac{1}{n} f\left(\frac{i}{n}\right) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

- (4) ②より、 $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq \sum_{i=1}^n \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \leq \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n f\left(\frac{i}{n}\right)$

ここで、 $S_n = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k-1}{n}\right)$  とおくと、

$$\frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k}{n}\right) = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k-1}{n}\right) + \frac{1}{n} \{f(1) - f(0)\} = S_n + \frac{1}{n} \{f(1) - f(0)\}$$

$$\text{また、定積分の性質(B)から、} \sum_{i=1}^n \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx = \int_{\frac{0}{n}}^{\frac{n}{n}} f(x) dx = \int_0^1 f(x) dx$$

$$\text{よって、} S_n \leq \int_0^1 f(x) dx \leq S_n + \frac{1}{n} \{f(1) - f(0)\} \text{となり、}$$

$$0 \leq \int_0^1 f(x) dx - S_n \leq \frac{f(1) - f(0)}{n} \cdots \cdots \textcircled{3}$$



**[解説]**

定積分の定義を問う「共通テスト」風の問題です。内容は基本的ですが、ただ数学Ⅲを履修していなければ難しく感じるでしょう。